

書評という快樂 「臨死体験」から「AV女優」まで 一九八六—二〇〇一 目次

序 朝日新聞書評の内幕 1

1986年 10

『日本人の病氣観—象徴人類学的考察』 大貫恵美子

『よくわかる脳死・臓器移植—問—答』 黒川利雄〔監修〕・

『生命と倫理について考える』 厚生省健康政策局医事課編

1987年 14

『医の倫理』 唄孝一編

『メタ・バイオエシックス』 長尾龍一・米本昌平編

『公園通りのソクラテス』 古茂田宏・汐見稔幸・佐藤和夫・清真人

『二〇世紀全記録』 小松左京・堺屋太一・立花隆・監修

『毎日が科学の日』 中村桂子

1988年 22

『ポポイ』 倉橋由美子

『生と死の演出』 コウレン

『あなたの臓器は誰のもの』 飯田巨之

1989年 28

『遺伝管理社会』 米本昌平

『日本の科学思想』 辻哲夫

1990年 39

『病いの戦後史』 向井承子

1992年 40

『臨床の知とは何か』 中村雄二郎

1993年 43

『尾崎豊の魂』 山下悦子

『医学史と数学史の対話』 川喜田愛郎・佐々木力

『夢のもつれ』 鷺田清一

『デカルトなんかいらぬ？』 ギタ・ベシス パステルナーク

『病い論の現在形』 小林昌廣

『生命論パラダイムの時代』 日本総合研究所・編

『生と死への眼差し』 村上陽一郎

1994年 51

- 『親指Pの修業時代 上・下』松浦理英子
- 『最後のモード』鷺田清一
- 『マザーネイチャーズ・トーク』立花隆・編
- 『電腦汎智学』西垣通
- 『臨死体験 上・下』立花隆

1995年 59

- 『人間らしい死にかた』S・B・ヌーランド

1996年 80

- 『フランケンシュタインの末裔たち』佐倉統
- 『生殖革命と人権』金城清子
- 『味読・乱読 いじめられている君へ』
- 『ゴーマニズム宣言9』小林よしのり
- 『オウムからの帰還』高橋英利
- 『フェミニズム入門』大越愛子
- 『AV女優』永沢光雄
- 『自然保護を問いなおす』鬼頭秀一
- 『脳を究める』立花隆
- 『気相の哲学』桑子敏雄
- 『相互扶助論』ピョートル・クロポトキン
- 『性への自由／性からの自由』赤川学

- 『全共闘からリブへ』女たちの現在を問う会編
- 『深海生物学への招待』長沼毅

- 『生殖技術とジェンダー』江原由美子
- 『1945年・ベルリン解放の真実』ザンダー、ヨール編著
- 『生物学個人授業』岡田節人、南伸坊

1997年 80

- 『ボディ・レントル』佐藤亜有子
- 『「彼女たち」の連合赤軍』大塚英志
- 『心的外傷と回復』ジユデイス・L・ハーマン
- 『味読・乱読 生き残った優生思想』
- 『左右を決める遺伝子』柳澤桂子
- 『生命の意味論』多田富雄
- 『癒しの時代をひらく』上田紀行
- 『女であることの希望』吉澤夏子
- 『性 のミステリー』伏見憲明
- 『新・ゴーマニズム宣言第3巻』小林よしのり
- 『社会学になにができるか』奥村隆・編著
- 『生命医学倫理』トム・J・ピーチャム、ジェイムズ・F・チルドレス
- 『思想としてのパソコン』西垣通・編著訳
- 『味読・乱読 男性学が断ち切る古い鎖』
- 『子役白書』早乙女朋子
- 『ナノテクの楽園』エド・レジス
- 『生物多様性の危機』ヴァンダナ・シヴァ

『キャンパス性差別事情』上野千鶴子・編

『私は「慰安婦」ではない』戦争犠牲者を心に刻む会・編

『私的所有論』立岩真也

『傷つきやすい子ども』という神話』ウルズラ・ヌーバー

『少年犯罪と少年法』後藤弘子・編

『韓国風俗産業の政治経済学』申蕙秀

『味読・乱読』友としての女性たちに』

1998年 110

『進化論の挑戦』佐倉統

『まぼろしの郊外』宮台真司

『さよならダーウィニズム』池田清彦

『インターネットはグローバル・ブレイン』立花隆

『発情装置』上野千鶴子

『オーストラリア発』柴谷博士の世界の料理』柴谷篤弘

『生と死の倫理』ピーター・シンガー

『共鳴する死』小松美彦

1999年 120

『障害者差別の社会学』要田洋江

2001年 121

『ディープ・エコロジー』アラン・ドレングソン、井上有一・共編

その他 122

『週刊読書人』読書日録・一九九四年

『週刊読書人』一九八九年上半期の収穫から

『週刊読書人』一九九〇年上半期の収穫から

『図書新聞』一九九三年上半期読書アンケート

『図書新聞』一九九三年下半期読書アンケート

『朝日新聞』一九九七年の収穫

『イエローキャブ』原色の愛に抱かれて』家田莊子（英文・一九九二年）

付録 131

書評対象本ベストテン

森岡書評ベストテン